

佳泉郷 井づつや（湯村温泉）

98度という高温の源泉が1分間に約470リットル湧出する湯村温泉で営業する旅館。自家源泉による”かけ流し”温泉と旬を活かした料理、心温まるサービスによる「おもてなし」が自慢の宿。「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」等に選出されている。

【会社概要】 ※2025年3月時点

会社名 | 株式会社井筒屋
本社所在地 | 兵庫県美方郡新温泉町湯1535
事業内容 | 旅館業

従業員数 | 142名

『脱炭素経営を実践している事例紹介』

『湯がき文化が根付く湯村温泉で地域一体で脱炭素に取り組む』

湯村温泉は、1200年前の開湯以来、98°C、470ℓ/分の豊富な温泉を利用し、入浴だけでなく、山菜などを湯に浸けて調理する「湯がき」が行われてきました。

温泉文化が家庭の暮らしまで行き届き、現在では、湯がきだけでなく、温泉と水との温度差を利用した発電や高温の温泉を活用した旅館の暖房等に活用されるなど、地域全体で温泉を最大限活用する新しいチャレンジにもつながっており、CO₂を排出しない環境に優しい取組へ進化を続けています。

高付加価値な体験と環境への貢献を両立

以前はバイキング形式で食事を提供していましたが、余った食材は従業員用として利用する等、フードロスの削減には努めていましたが、その量が膨大になったことから、和定食での食事提供に変更させていただき、無駄が出ないように取り組んでいます。加えて、敷地内にある庭や屋上庭園において緑化を推進、地域の環境活動（ゴミ拾いや清掃、イベント等）へ参加するなど、様々な環境貢献の取組を推進しています。

また、井づつやは客室露天風呂も温泉かけ流しとなっているため、入室後にお湯を張ります。これは環境に優しい対応ではありますが、入室時点でお湯が張られていないことに不満を抱くお客様もいらっしゃいます。高付加価値な体験と環境への貢献を両立にむけて、温泉かけ流しの特徴、環境への貢献など、お客様にご理解いただき、それを踏まえて滞在を楽しんでいただけるよう取り組んでいきたいです。



大阪・関西万博「ひょうごフィールドパビリオン」に選出

2025年に開催される「大阪・関西万博」において湯村温泉の「自然エネルギーを活用した「湯がき体験」（湯村温泉観光協会）」が兵庫県の「SDGs体験型地域プログラム」に認定されています。

体験内容

- 98°Cの源泉が毎分470ℓ湧出している「荒湯」で地元産品の山菜、野菜、米、などの湯がきを体験
- 高温の温泉を、温泉旅館だけでなく地域住民の日常生活まで町全体として活用し、化石燃料に頼らずに発電、文化的生活を営む取組、電気など新たな可能性に向けてチャレンジしている取組をガイド

（出所：ひょうごフィールドパビリオンホームページ「<https://expo2025-hyogo-fieldpavilion.jp/program/3>」より）